



	平成12年	平成17年	平成22年	平成23年
第1位	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物
第2位	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患
第3位	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患	肺炎
第4位	肺炎	肺炎	肺炎	脳血管疾患

日本の死因の推計 誤嚥性肺炎の現状



厚生労働省による平成24年人口動態統計の年間推計によると日本の死亡数は124万5000人、死亡率(人口千対)は9.9と推計されることとす。

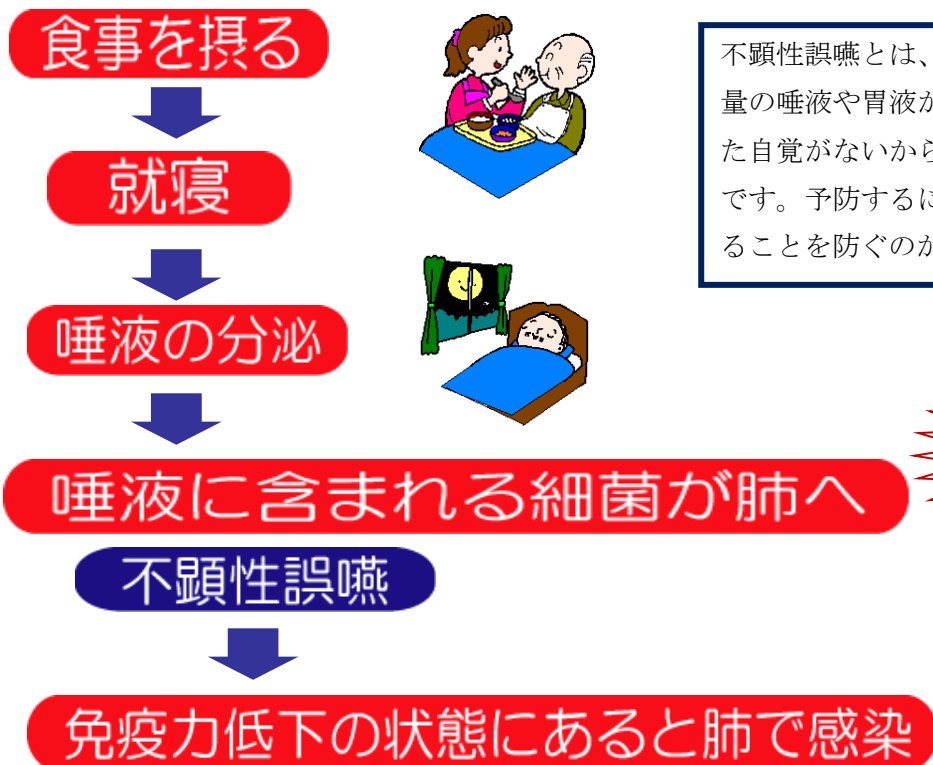
主な死因の死亡数は、第1位悪性新生物36万1000人、第2位心疾患19万6000人、**第3位肺炎12万3000人**、第4位脳血管疾患12万1000人と推計されます。

注目は第3位の肺炎です。年次推移を左記の表に示しますが、殆ど変化のなかった順位が、平成23年を境に肺炎

と脳血管疾患が逆転しています。肺炎で死亡した人のうち90%以上が65歳以上の高齢者であり、そのほとんどが誤嚥性肺炎と言われています。気管の入口には喉頭蓋(こうとうがい)とよばれるふたがあり、食べ物を飲み込む時には反射的にふたが閉じる仕組みになっています。

しかし、年をとると、反射が鈍り、異物が誤って気管から肺に入りやすくなります。その際、もともと口の中に存在する雑菌や胃液が、食べ物や唾液と一緒に肺に入り込んで引き起こされるのが、誤嚥性肺炎です。

不顕性誤嚥による肺炎の発生機序



不顕性誤嚥とは、睡眠中など本人の気付かないうちに少量の唾液や胃液が気管に入るものです。誤って飲み下した自覚がないから、何度も繰り返して発症するのが特徴です。予防するにはお口の中を清潔にして細菌が肺に入ることを防ぐのが重要です。

